



No.125



やすらぎの杜 アトリエ活動



やすらぎの杜 フランスのギャラリー「plein-jour」にて菅原康匡さんの作品を前に



町田おかしの家

INDEX

令和元年度新任職員研修会報告…………… 2	施設紹介「町田おかしの家」…………… 7
栄養調理スタッフ会学習会報告…………… 4	リレーコラム「地域とのつながり」…………… 8
令和元年度第1回合同学習会…………… 5	編集後記…………… 8
施設紹介「やすらぎの杜」…………… 6	

●発行所 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●東社協ホームページ (<http://www.tcs.w.tvac.or.jp/>) からご覧いただけます。

令和元年度 新任職員研修会 報告

研修委員会 名古屋 敬太

6月21日（金）、22日（土）に神奈川県足柄郡いこいの村あしがらにて、「将来を見据えて今を考える～本人中心の支援のために～」をメインテーマとし、令和元年度新任職員研修を開催しました。73名の新任職員のみなさんが参加しました。

1日目

「支援者としてのビジネスマナー」

研修の最初はキャビンアテンダントの経験をお持ちで、その後キャビンアテンダント向けの講師をはじめ、大学院での講義を多く行っているbee's kneesの奥村まゆみ氏に講義をしていただきました。

社会人として働く意識を醸成させていくことを目的としたビジネスマナーについて講義をしていただき、働きやすい居場所を作るために必要なことについて教えていただきました。働きやすい居場所を作るためには自分の信頼性を高める必要があります。信頼性を高めるためには表情や身だしなみといったビジネスマナーが必要ですが、その中でも「挨拶」の重要性について講義していただきました。研修生同士で挨拶についての実際どのようにしているか話し合いをしたり、奥村氏への質疑応答も多く上がり、実際の職場での自身の振る舞いについて改めて考える研修となりました。

挨拶は基本的で、簡単なことだと思われませんが、挨拶の仕方一つが相手に与える印象が変わってしまい、信頼関係を築いていくためにはとても重要であると教えていただきました。

《参加者の声》

- ・ ビジネスマナーを守ることは上司や先輩との信頼関係を築くことに繋がり、とても重要だと感じた。
- ・ 職場での信頼を得るためにしっかり挨拶を意識していこうと思った。



1日目～2日目

「本人中心の支援とは」

続いて、日本福祉大学教授 綿祐二氏に講義をしていただきました。

綿氏が経験されてきたことや時事ネタについてのお話しをしていただき、研修生も興味深く聞き入っていました。

講義の中では自分たちの仕事はどういうことが改めて確認していきながら、利用者のニーズについてを中心に学んでいきました。利用者支援においてニーズを決めるのは支援員であり、まずはその利用者のことを深く知る必要があります。研修生同士で、言葉を用いないノンバーバルアセスメントによる情報を収集する練習を行いました。みなさん苦戦している様子でした。しかし、実際の支援では一つの間違いが命に関わってしまう可能性もあるため、アセスメントがいかに重要かを学びました。

《参加者の声》

- ・ 経験された現場の話が入りやすかった。
- ・ 事例、ケースが多くイメージしやすかった。
- ・ 利用者のニーズを考えることは難しいと感じた。
- ・ 担当利用者をより深く見ていき、本人の意志を読み解く力を身に付けたいと思った。
- ・ ニーズの重要性について学ぶことができ、とても参考になった。
- ・ アセスメントを行う上で、情報の読み取りは慎重にしなければいけないと感じた。



1日目～2日目 「グループワーク」

2日目も綿氏に引き続き講義していただき、一つの事例を通してご本人、ご家族に向けた支援方法についてグループワークを行いました。

始めは現状での支援方法の話し合いをしているグループが多く見られましたが、利用者はもちろん、ご家族もライフステージが変化していきます。5年後、10年後、その先どうなっていくかまで深く考えなければいけないとお話ししていただく、支援方法を決めていく困難さを目の当りにしている様子でした。しかし、二日目ということもあり、グループ内で様々な視点からの意見が飛び交っていました。最後にはポスターセッションにより各グループの支援方法を見て回り疑問点や良い点などを付箋に張り出し出していました。それぞれが真剣な表情で見ていたことがとても印象に残っています。

研修生は法人や事業形態も異なるため、新たな発見や考え方も知ることができ、今後の支援に向けてとても有意義なグループワークだったと感じました。

《参加者の声》

- ・目の前のことばかりに目が行きがちだが、将来のことをしっかり考えることが大切だと思った。
- ・それぞれの意見を聞くことができ、価値観が広がり支援に活かしていこうと思った。
- ・ポスターセッションによって学ぶことが多くあった。



2日目 「個別支援計画の実施プロセス」

最後に社会福祉法人南風会 青梅学園 施設長の浅野日奈子氏に『個別支援計画策定プロセス』についての講義をしていただきました。

基本的誤り（ベイシック・ミスイクス）について学び、決めつけによる思い込みの恐さを再認識させられました。また、個別支援計画において日々の記録がいかに重要かを学びました。計画を立て、実行しそれに対する評価を行い改善していくといったPDCAサイクルについてのお話の中で、計画→実行の繰り返しになりやすいことを学びました。

個別支援計画を作るうえで、日々の記録を見直しPDCAサイクルをしっかりと意識していく必要性を感じた講義となりました。

《参加者の声》

- ・今後個別支援計画を作成するので、今回学んだことをしっかり意識して作っていこうと思う。
- ・もう一度計画を見直し、支援していこうと思った。
- ・常に確認し、疑問を持って支援していくことが大切だと思った。

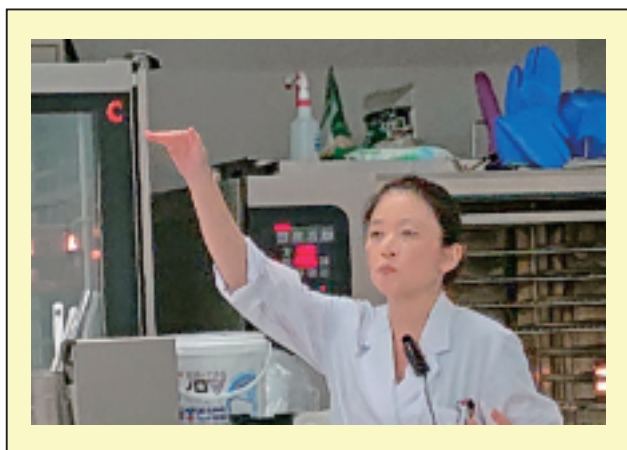
二日間の研修を通して、支援力の向上はもちろん、同じ福祉職員として横の繋がり的重要性を感じることができた研修となりました。

栄養調理スタッフ会 学習会報告

栄養調理スタッフ会

幹事 岡本 剛

2019年6月25日・28日（両日同一内容）に行われた学習会では、株式会社エフ・エム・アイの管理栄養士 毛利伸子氏をお迎えし、厨房機器類を活用し人手不足の解消法・普段使用している厨房機器類の活用法や手作りの嚙下食をおいしく提供できる調理法についてご講演していただきました。



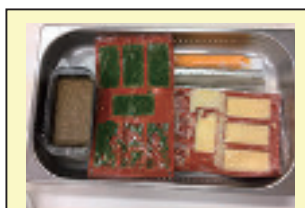
普段、魚を焼くときに使用しているスチームコンベクションオープンも焼き上げる温度管理や魚と魚の間隔のあけ方・使用する道具の使い方で表面はパリパリに、魚の中身は水分が保たれ柔らかく網状の焼き目がつき見た目もきれいに仕上がる焼き方をご紹介いただきました。

加熱調理と冷却（冷蔵・冷凍）機能が兼ね備わった機器を利用し、人手のある時間帯を利用し事前に調理・盛り付けを行い食器に入れたまま冷蔵（冷凍）保存し提供時間に合わせて食器ごと再加熱を行い、朝食など人手が不足しやすい時間帯の配膳作業の軽減方法を実演していた



上：焼き目が付いた鮭
下：一般的な焼き方

いただきました。



まとめて筍やごぼうをペースト状にした後、型に流し形成し冷凍保存しておく。



前日、人手のある時間帯に必要な大きさにカット加熱調理する。



食器に盛り付け冷凍（蔵）保存する。
提供時間に合わせてそのまま再加熱して利用者さまへ提供

嚙下調整食の調整に必須のミキサーは、厨房機器類の中で一番壊れやすく修理依頼の多いとの紹介があり末永く使用するためにミキサーの種類やミキサーに入れる食材の適正量・食材の種類・仕上がりの状態に合わせた使用方法やメンテナンス方法などの説明がありました。使用するミキサーの違いにより形態も見比べて試食することが出来ました。



令和元年度 第1回合同学習会

「働く」生産活動の在り方について ～これからの事業所の役割とは～

せたがや榎の木会 どんぐりホーム上町 紀平 訓江

9月6日に東社協知的発達障害部会通所施設分科会、東京都障害者通所活動施設職員研修会共催の学習会が開催されました。

初めに社会福祉法人さくらの園理事長・橋爪亮乃氏から法人の成り立ち施設紹介、多機能型施設として地域社会との連携、地域で必要とされる役割の人の取り組みについて事例発表を伺い、次にNPO法人ホープワールドワイドジャパンアトリエ福花チーフマネージャー・石塚浩子氏から他業種からの転職の経緯、アート活動を中心とした取り組み、福祉を前面に出さず商品から入ってもらう取り組みなどが紹介されました。

その後、4つのグループに分かれ①利用者

の高齢化、障害の重度化に対する取り組み

②工賃UPにむけた取り組みについてディスカッションを行いました。全体の参加人数は少なかったのですが就労B、入所、GH、役所職員など広い範囲の方と話し合うことが出来ました。各グループからの発表を聞いて、高齢化は利用者だけではなく職員の高齢化、地域全体の高齢化など避けて通れない課題であることを再認識しました。

参加者からは「半日の研修でみなさんの話を聞く時間が短く、参考になることも多かったのですが、またこのような場があると良いと思いました。」という声もありました。



施設紹介

やすらぎの杜

【施設概要】

社会福祉法人章佑会「やすらぎの杜」は練馬区関町にある障害者支援施設です。

施設入所支援、通所支援を中心に、就労継続B型、生活介護、短期入所を運営しています。

日中は散歩や音楽活動、スヌーズレンなどの活動や、自主生産品製作、受注、清掃など、皆さんの好きな事、得意な事を生かせる活動、作業に参加して1日を過ごされています。

【アート活動】

2013年アート好きな職員が集まって「PoMA」を立ち上げました。

Peace of Mind Art (やすらぎのアート) の頭文字をとって「PoMA」

ニューヨークにある超有名美術館のように私たちも世界に知られる活動をしたい！という大きな野望も含めての「PoMA」です。

PoMAでは絵画や、陶器、機織りなどの作品を制作するアトリエ活動を行い、作品展の開催、アートグッズの製作、販売を通じてみなさんが作り出すものを広く世の中に発信するべく活動を行っています。

【多くの方に支えられて】

PoMAのアート活動は外部のみなさんの力に

よって、より大きな広がりを見せています。

吉祥寺にあるカフェ「nito café」のオーナーは私たちの活動をHPで知り、それ以来作品展の企画や、施設で作っているパンの販売など、地域の皆様と私たちを繋げる橋渡し役を長い間続けて下さっています。

【フランス・ギャラリーとの出会い】

PoMAの活動はインスタグラムでも発信しています。その投稿を観たフランス・ドゥアルヌネにあるギャラリーから連絡を頂き、2019年5月～6月の期間、PoMAメンバー菅原康匡さんの作品が展示されることになりました。私たちが訪れたフランスのお宅には代々受け継がれている絵画や、新たにコレクションされた現代アートが飾られ、有名、無名に関わらず、良いと感じた芸術品を心の潤いとして楽しめる皆さんの生活に菅原さんの作品が仲間入りしたことに大変感銘を受けました。

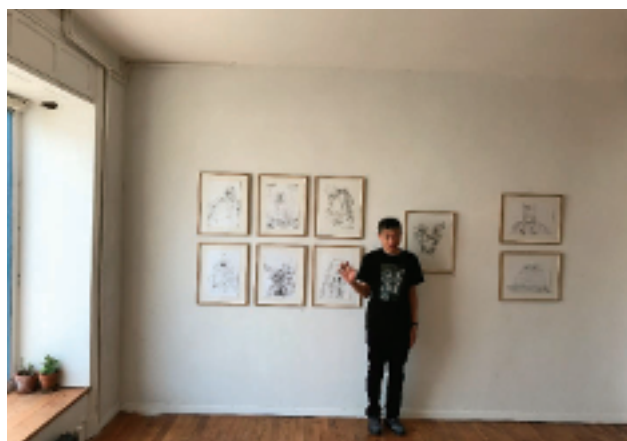
PoMAメンバーの作品はどれも私たちの心を鷲掴みにするパワーがあります。

その作品、そしてそれを作り出すみなさんの存在をこれからもどんどん発信していきます。

芸術委員：皆川恵



アトリエ活動



フランスのギャラリー「plein-jour」にて菅原康匡さんとその作品

施設紹介

町田おかしの家

【事業概要】

《事業種類》

* 指定障害福祉サービス事業所

① 就労継続支援B型事業

町田おかしの家（利用定員30名）

② 共同生活援助

ケアホーム愛の鈴（利用定員10名）

①及び②の利用対象者

- ・ 区市町村による障害福祉サービスの支給決定を受けられている方

《経営主体》

社会福祉法人 愛の鈴

【町田おかしの家基本方針】

障害がある人達が働きながら、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、それぞれの能力に応じた支援計画を作成し支援すると共に、利用者の個性や障害特性を尊重した施設運営に努めています。

* 作業支援

障害度等の状況に配慮し、利用者本人の能力と働く意欲を尊重し、一般就労に向けた支援を行うと共に、所得の向上を目指した作業の確保や生産に努めています。

* 生活支援

利用者の心身の状況を常に把握すると共に、日常生活を送る上での必要な金銭管理や対人関係の支援を行いながら自立した地域生活が送れるよう

努めています。

【沿革】

1992年4月に（株）「銀座あけぼの」 忠生工場（菓子製造業）内にて心身障害者通所授産所「おかしの家愛の鈴」として発足しました。

2005年10月に社会福祉法人愛の鈴として認可され、名称を身体障害者小規模通所授産施設「町田おかしの家」に変更し、新たに経営を開始しました。

2009年5月に新施設竣工、7月に就労継続支援B型事業所「町田おかしの家」として経営を開始しました。

【施設概要】

町田おかしの家では、菓子袋へのシール貼り、菓子の袋詰め、ゼリー包装作業等を中心に、企業から通年多くの仕事の依頼があります。食品に関わる作業の為、衛生面、環境整備については力を入れ、商品としての見た目の綺麗さのみならず、衛生的な完成度も常に追求しています。利用者一人一人が責任を持って真剣に仕事に取り組む風土を大切にし、働くことで自らの存在意義を自覚でき、そして働く喜びを感じられる事業所です。また、音楽活動や研修旅行、レクリエーション等様々な行事も積極的に取り入れており、とても活気のある事業所です。



「地域とのつながり」

36

社会福祉法人あいのわ福祉会 神明障がい福祉施設 神田 博至

「所長さん、お宅の利用者さんが外で困っていたわよ。」

このように近隣の方からお声を掛けていただくことがあります。

感謝の気持ちをお伝えすると、皆さん一様に、当たり前のことをしたままで、とにかく利用者の方のところへ早く行ってあげて欲しいと仰ってくださる。

昨今は、他人には不干涉でいることが良しとされて、隣人が何を抱え、感じて生活しているのが全くわからないが故の近隣同士のトラブルも後を絶たないと聞く。

そんな時代にこのように温かい目で利用者の方を見守ってくださる地域の方々には、福祉の基本である相互扶助の精神を日常生活で当たり前のこ

ととして実践していらっしゃる姿に学ばせていただくことばかりである。

また、振り返ってみると私自身が子供の頃に地域に見守られ、安全に成長してこれたのは、両親が近隣の方と地道に良い関係を築いてきてくれたお陰であったことがわかり、改めて有り難さが身にしみています。

現在、当法人では地域貢献活動に力をいれており、他5団体によるこども食堂の運営、地域交流に関するイベント、学校行事への参加、地域清掃など様々な取り組みを行なっている。こうした取り組みを推し進めていくことは勿論、これからもこの温かな地域で近隣の方々と毎日、気持ちの良い挨拶を交わし合い、地道に関係を深めていきたいと思っています。

編集後記

先日自家用車の点検に行ったのですが、その際お店の方が最新の自動車の案内をしてくれました。

運転補助機能が進んでいて驚きでした。渋滞追従機能、衝突軽減ブレーキ、路外逸脱抑制機能…などなど。せっかくだからということで試乗したのですが、私はそもそもキーを挿さずにボタンプッシュでエンジンをかけられるという時点で戸惑ってしまいました。

一般道ではそれほど機能を感じる場面はありませんでしたが、高速に乗るとハッキリと感じられるとのこと。自動運転化が進んでいることを実感しました。福祉の分野でもICT導入が話題となっています。どの様な未来が待っているのでしょうか。楽しみです。